

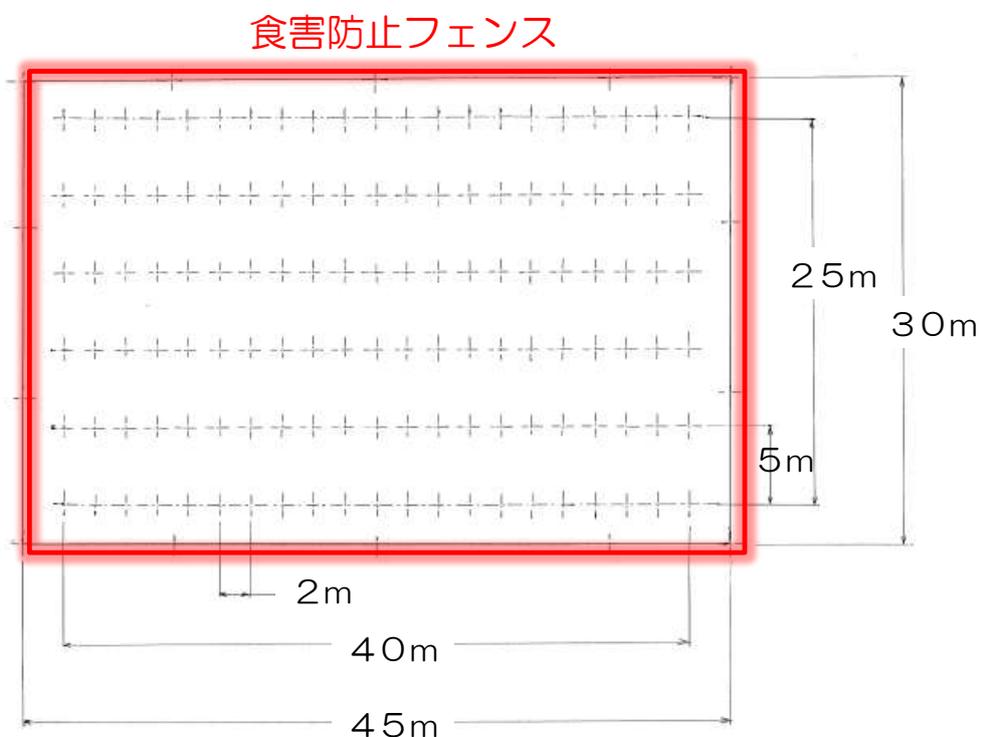
侵入防止フェンスの設置(1)

ウニ類侵入防止のために、事業箇所の水深 6~7m の場所に、チェーンに固縛した刺し網をフェンスとして設置しました。

ウニ類侵入防止フェンスは、地元漁業者の皆さんで作製し、業務箇所において、チェーンを海底面に固定した後、刺し網フェンスを固縛しました。

神恵内村藻場LANDの全体区画は $25\text{m} \times 40\text{m}$ ($5\text{m} \times 8\text{m} \times 25$ 区画) = $1,000 \text{ m}^2$ とし、ウニ類侵入防止フェンスの設置区画は $30\text{m} \times 45\text{m}$ としました。

フェンス詳細



作業状況



チェーン (φ13)



フェンス

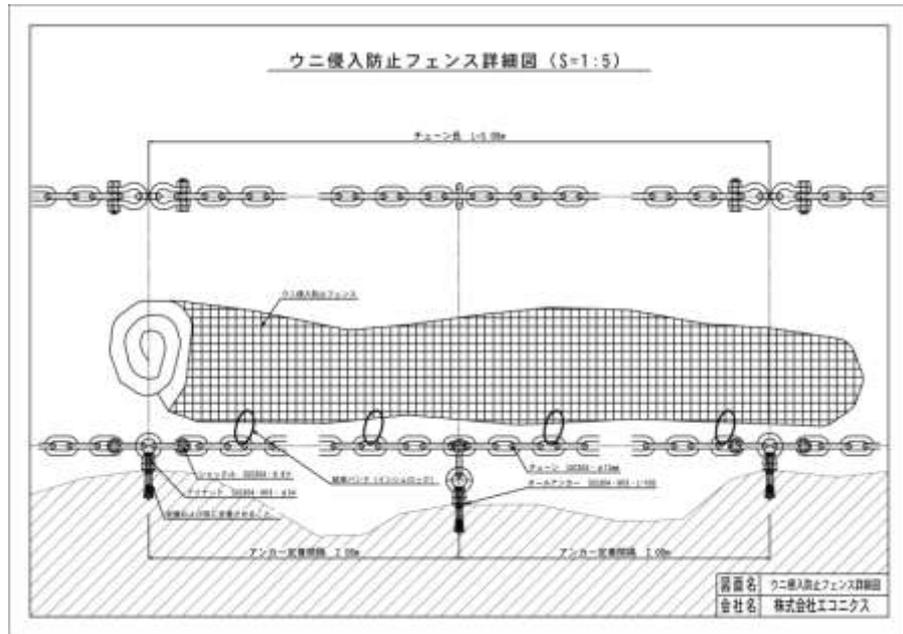


フェンス作製

ウニ類侵入防止フェンスの設置(2)

チェーンは 5m 程度に切り分け、海底の窪地に這わせ、オールアンカー等で固定した後に、ウニ類侵入防止フェンスを固縛しました。

フェンス詳細



作業状況

2011. 10. 21~22, 10. 29~31



水中削孔



チェーン固定



フェンス固縛

ウニ類の密度管理

2011年10月以降1月に1度の頻度で漁業者による密度管理を行っています。

2011年10月15日にはウニ類は最大で24個体/㎡、平均で13.4個体/㎡生息していました。これを5個体/㎡以下になるように漁業者による密度管理を行ってきました。なお、密度管理で取り除いたウニ類は、身入り自体は少なく商品価値が低いいため、赤石漁港内で餌を与える身入り改善試験事業がスタートされています。

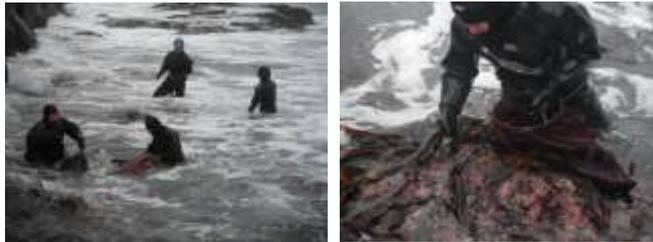


コンブスポアバッグ設置

スポアバッグ方式とは、成熟した海藻を採取し、これを網袋などに入れて、海底に設置することにより、網袋から海藻のタネを周辺に拡散させる方法です。

母藻採取

2011. 11. 27



母藻採取

母藻乾燥

2011. 11. 27～28



陰干し

根おとし

水切り

スポアバッグ
設置

2011. 11. 28

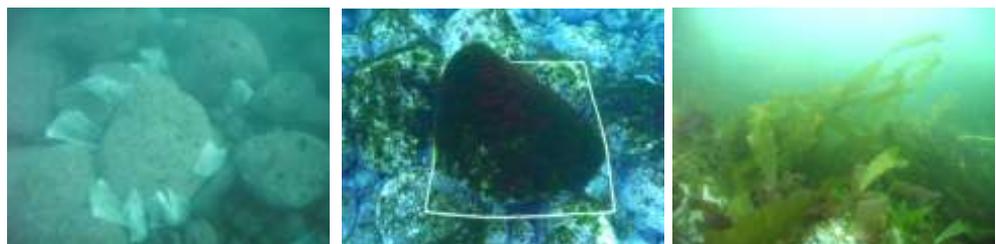


スポアバッグ作製

スポアバッグ

スポアバッグ投入

設置後の経過



投入直後 (2011. 11. 28)

2012. 2. 24

2012. 4. 14

スポアバッグについて

スポアバッグとは、スポア（孢子）で増殖する海藻を生分解性素材のスクエアバッグを使用して藻場回復に役立てるための網袋のことを言います。

スポアバッグは、約 50cm 四方の袋の上部を 10cm 重ねて縫製（糸もポリ乳酸フィラメント）し、口が閉じるように形成されたもので、84 個の穴を開けています。この袋の中に一晩あじょうした母藻コンブと重りになる石を入れ、造成区に投入しています。一晩あじょうすることにより、コンブ孢子は比較的速やかに放出され、袋の穴から岩礁に着生し、コンブの増殖を促します。

コンブは冬～早春に孢子体として発芽し、3～6 月によく伸長します。

このスポアバッグの素材特性から海中では強度が急速に弱まり、徐々に分解していきます（pH が高いほど強度劣化は進行します、海水の pH は約 8）。

孢子を出す母藻をスポアバッグに入れることで、藻場を造りたいところに孢子を着生させ（種まき）、役目が終わったスポアバッグは、徐々に破断され生分解されます。

参考資料：有限会社グリーンサポート HP <http://www.green-support.com>

